

特集

松尾スズキインタビュー

扉のむこうがわ

地域とアートのステキな関係

公演ピックアップ情報

はじめては、いつだって
ココロおどる。

北九州芸術劇場
KITAKYUSHU PERFORMING ARTS CENTER

北九州市立 響ホール
HIBIKI HALL

つながる、見つかる

情報誌

vol.65 2019.07

つながる、見つかる

情報誌

vol.65 2019.07

疲れたら、
ちょっとひと休みしてね。

表と裏のあいだに。

リニューアル号の表紙を飾っていただいた佐野さんご夫妻。
旦過で営む小料理屋ではいつもとびきりの笑顔でゲストを迎え、休日には二人で劇場や映画館に繰り出すことも。
どちらも同じ日常、でも時にアートに触れることが、何処か遠くへ旅をするような、(非日常の)特別な時間にもなったりする。劇場と響ホールは、いつでもあなたのすぐそばに。情報誌 Q リニューアル記念号、創刊します。

松尾スズキ

演劇に留まらない全国区の活動を展開している北九州市出身の松尾スズキが、自身でプロデュースする新企画を始動する。
長年率いてきた「大人計画」30周年を越えての「NO劇団」に込められた“これまでとこれから”。
人生の晩年を見据える新作に託した「決意」を聞く。

取材・文／尾上そら 撮影／重松美佐

松尾スズキ

1962年、北九州市生まれ。作家・演出家・俳優。88年に「大人計画」を旗揚げ。97年『ファンキー！〜宇宙は見える所までしかない〜』で岸田國士戯曲賞受賞、08年映画『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』で日本アカデミー賞最優秀脚本賞受賞。19年大河ドラマ『いだてん〜東京オリムピック噺〜』に出演、秋には監督・脚本・主演映画『108〜海馬五郎の復讐と冒険〜』が公開。

大人計画

松尾スズキが主宰する劇団、1988年に『絶妙な関係』で旗揚げ。宮藤官九郎、阿部サダヲ、荒川良々など多くの稀有な才能を輩出しながら多岐にわたる活動を展開し、平成・日本のエンターテインメントシーンを牽引する唯一無二の存在となる。昨年劇団創立30周年を迎えた。

「芸能生活30周年の先に見据える
「生きる」ととの滑稽と残酷。」

—ジャンルレスに活躍する松尾さんですが、演劇との出会いは遅めの、大学時代だそうですね。

以前から映画や漫画に興味があり、思春期以降、人見知りをこじらせていた自分にとってはそれらが逃げ場になっていたんですが、大学（九州産業大学芸術学部）に進学するまで演劇との接点は全くありませんでした。そもそも最初に観たのも劇場ではなく、テレビで放映された下北沢・本多劇場のこけら落とし公演『秘密の花園』（1982年 唐十郎 作、小林勝也 演出）で。主演の柄本明さんが叫ぶは跳ね回るのは、今の芸風からは考えられないNODA・MAPみたいな芝居をしていた（笑）。「演劇ってなんて自由なんだ！」と感銘を受けました。

—いきなりアングラ演劇の洗礼を受けられた。

ええ、で、興味が出たので学内の演劇サークルの公演『熱海殺人事件』（つかこうへい 作）を観に行って。下手だけどリアリズムじゃない演技が面白かったし、自分は当時漫画の投稿をしていたんですが、そこで必ずといっていいほど求められる起承転結を、無視したうえで演劇は成立していた。急に音楽をかけて盛り上がり、場面が飛躍してもお構いなし。好きなことが存分にできそうだと、演劇を始めたんです。当時はお金もなく、地元の折尾にも大学の周りにも何もなくだったので、部室にある戯曲をひたすら読んでいました。

—ご自身のやりたいことに演劇を通して焦点が合った、と。

当時も今も、自分が一番やりたいことは「笑い」で、それがルール無用で徹底してできそうだというのも演劇の魅力でした。一時は芸人になろうと思ったこともあるんです。でも芸人さんたちの生き方はハード過ぎて、繊細な自分には無理だと諦めた（笑）。まあ結果的に、その後の劇団での作品や表現はかなりハードなものになっていったんですが。

—大学卒業後、就職を機に上京。そこで88年に「大人計画」を結成し、劇団は昨年30周年に。公演や劇団の足跡をまとめた展示企画「30祭」が東京に続き福岡でも開催されました。

バタバタのうちに決まり、スタッフが死に物狂いで準備してくれたので、九州の皆さんにも見て、喜んでいただけたのは良かった。かつて地元にも居場所がないと感じ、逃げるよう

に上京した自分が北九州市民文化賞をいただいたり、九産大のCM出演など仕事までもらい、以前より北九州に帰って来る機会も増えていて。今更ながら故郷に許されたようでホッとしています。

演劇で来ることが多かった九州ですが、北九州はフィルム・コミッションでも有名。「老人賭博」という北九州を舞台にした小説も書いているので、オール北九州ロケでの映画制作も、機会があればやってみたいですね。



—30周年の次が劇団ではなく、ご自身のプロデュースによる東京成人演劇部『命、ギガ長ス』。外部の女優・安藤玉恵さんとの二人芝居です。

劇団での30周年はきちんと区切ったので、次の一步は「NO劇団」で行こうか、と。今は劇団本公演もかなりの規模ですから、そういう商業的な場所から離れ、演劇を始めた頃に近い環境でやりたいことをやる、という想いも込めての“演劇部”です。

50歳の時、天久聖一さんに手伝ってもらって初の一人芝居『生きちゃってどうすんだ』（2012年）をやり、そこで自分なりに変わるかと思ったら全然だった（苦笑）。一人で延々と芝居をするのもツツイので、今回は二人芝居にしました。でも相手を劇団員から一人選ぶと、その後、色々支障をきたしそうじゃないですか（笑）。だから自分の中で一番、部活の香りがする安藤さんに出演をお願いしました。

—主な登場人物は「認知症の母とアル中ニートの息子、女性ドキュメンタリー作家と彼女のゼミの教員」だ、と。

ドキュメンタリーを見るのが好きで、撮る側のメンタリティには以前から興味があったんです。若者や中高年層の貧困、老親がニートの中年層の面倒を見ざるを得ない「80-50問題」など、よくドキュメンタリーの題材になっている、今の自分にもドはまりの日本の

新企画 始動。

現状を演劇で捉え直すことになります。とはいえ劇団より、かなりスイーツな現場＆作品にしたいと思っています。

もう一つ、この作品には「自分がこれまでどういう風に演劇をつくってきたか」を記録したいという想いもあるんです。既に戯曲は書き始めているんですが、創りやすく、かつ身軽に持って歩くために二人芝居は最適なサイズ。普遍的な内容を持ち、演劇をやりたいと思っている人が使いやすいソフトをつくり、そこに自分の作劇や演出のエッセンスを丁寧に書き込んでいくつもりです。入門書や演劇論を書くのはガラじゃないけれど、自分の演劇の軌跡を上演以外でも残したかった。

2016年に亡くなった蜷川幸雄さんは車いすで稽古場に通い、最後まで演出を続けたそうです。あの生き様には、老いていく自分の将来と演劇の関係について改めて考えさせられました。その色々考えたことの一端を、『命、ギガ長ス』に織り込むつもりです。

松尾スズキプロデュース 東京成人演劇部vol.1
『命、ギガ長ス』
7/31(水)〜8/1(木)◇北九州芸術劇場 小劇場
※前売発売、当日券若干枚数。詳細は劇場ホームページにて。

扉のむこうがわ

北九州芸術工業地帯
モノレール公演「アイ・ノチス・バイ・ストッピング・ブレスिंग」
2019/3/9~10

新しい景色が、動き出す。

北九州モノレールの小倉駅。話題のモノレール公演を観ようと、指定された車両に乗り込み、座席に腰を下ろす。15時36分、モノレールはいつものように小倉駅を発車。そこに白衣をまとった役者たちがいることを除けば、日常の風景だ。公演が始まると、役者たちが4両編成の車内＝ステージを自由に行き来しながら、「物語」は進んでいく。志井駅を過ぎた頃だっただろうか。座席の前に規制線が張られた。表向きには客席と舞台が分断されたカタチだが、それによって私たちは作品の一部になり、演者側にいるような気持ちにもなった。作品も、私たち乗客も「物語」と「現実」を行ったり来たりする、折り返し60分間の旅。小倉駅に到着した瞬間、催眠術が解けたように「現実」に戻る。不思議な感覚に囚われながら駅の改札を潜ると、いつもの風景が、なんだか少しだけ違って見えるような気がした。



モノレール公演とは？

北九州芸術劇場と北九州高速鉄道株式会社がタッグを組み2014年より実施。小倉の街の上空を駆け抜けるモノレール車内が「走る劇場」へと生まれ変わる人気企画。来春新作上演予定。

文／寺脇あゆ子 撮影／重松美佐

A wonderful relationship
between the region and art

Art の楽しみ方

地域とアートのステキな関係

いつ、どんなきっかけで、アートに親しみ始めたのか。
現在音楽や演劇を楽しんでいる人にも、
「初めての体験」があったと思います。このコーナーでは、
そんな「初めて」の場所を生み出している地域と
アートの関わりについてご紹介します。



これはヴァイオリン
という楽器です！

ヴァイオリン奏者の瀧村依里さんが幼稚園にやってきた♪



「おもしろい」「楽しい」が、生きる力になる

学校法人浅野学園 尾倉幼稚園 園長・浅野英崇さん

「地域訪問コンサート」で響ホールがお世話になった尾倉幼稚園。同園のアートに対する考え方を探ります。

アートへの入り口をひらく

アーティストがホールからまちへ飛び出し、身近な場所で音楽を楽しんでいただく「地域訪問コンサート」。1月には尾倉幼稚園で開催されました。

「子どもたちにも聴きなじみのある名曲を、目の前で弾いてもらえる素晴らしい機会でした。子どもたちが楽器に興味を持てるようなパフォーマンスもあって、「クラシック音楽＝敷居の高いもの」という意識が芽生えるよりも先に、『ヴァイオリンって楽しい！』『私もやってみたい！』という気持ちがうまれてくれたらいいな

と思いますね」と浅野園長。

「北九州芸術劇場の大ホールで、毎年お遊戯会をさせて頂いています。他の学年の演目も観ることができるように、全学年が一度に入ることによって決めました。ご家族にとっても、子どもたちが大ホールの本物の舞台上に立って演技する姿を見守ることのできる大切な機会になると思います。子どもの行事がきっかけで文化的な施設に親しみをもち、結果的に親子でコンサートにでかけたり、展覧会を観に行くことだってあるかもしれない。そんな機会を少しでも増やせたらと思っています。」

「本物にふれる」ことを大切にしたい

「幼稚園の間に経験できることって、大人になるまでにとても大きな影響を与えると思うんです。ですから、貴重な『本物にふれる』経験をひとつでも多く子どもたちにさせてあげたいと考えています。工業大学と科学実験教室を実現したり、自然とのふれあい体験に“虫博士”に来てい

ただいたり、色んな分野の専門の方々にもお力を借りています」。地域や他施設とも手を組み園児の好奇心を育む園の理念に共感する人も多く、地域の信頼を得ています。

「幼児期を経て、学校生活に入ると成績や能力の視点で評価されてしまいがちですが、そのもっと手前に『楽しい』『おもしろい』と思える機会があれば、好きなことに打ち込める子に育ちますし、生きる力がつくと考えています。園では、子どもたちの成長につながる活動をこれからも大切にしていきたいと考えます。」

成績や能力で選択肢が狭まるよりもずっと早くに、本物にふれることの大切さ。子どもたちにとって、『アート』があらゆる分野への入り口になっているように、大人にこそ、この考え方は必要なかもしれません。



尾倉幼稚園

北九州市八幡東区尾倉3-8-2

STAGE

全国区から地域密着モノまで、
北九州ならではのラインナップ！

エンターテインメント性に富んだ話題作から北九州オリジナルの作品まで、今回は4作品をご紹介。まずは東京・大阪以外で観られるのはここ北九州だけ、毎回完売必至のNODA・MAP新作公演。今回は不朽の名作『ロミオとジュリエット』をベースにした“禁断の恋”をQUEENのアルバムを元に舞台化！演劇界の“奇才”ケラリーノ・サンドロヴィッチの新作公演は、フランツ・カフカの4番目の長編小説の遺稿が発見されたという何とも謎めいた設定の物語が気になるところ。

秋のダンスシーズンには、NODA・MAP作品の振付なども手掛ける、井手茂太振付・演出によるダンス作品『ギミックス』を上演。7名の気鋭の若手ダンサー達が九州各地を駆け巡り、ダンス界に新たな旋風を巻き起こします。そして、今年8年目を迎える人気企画『Re:北九州の記憶』。北九州のまちで暮らしてきた人々の“記憶”を戯曲化し上演するこの企画。まだ舞台芸術に触れた事がない方も、きっと、身近な物語として感じるのではないのでしょうか。



北九州芸術劇場ダンスクリエーション 「ギミックス」

7/14(日)
発売

【日程】北九州 9/14(土) 14:00、15(日) 14:00
※宮崎 9/21(土)～22(日)、熊本 9/29(日)
【振付・演出】井手茂太
【料金】一般¥2000、高校生以下¥1000
【会場】小劇場 ＊全席自由 ＊当日¥500増



2018年度舞台写真 ©藤本彦

北九州芸術劇場＋市民共同創作リーディング 「Re: 北九州の記憶」

9/1(日)
発売

【日程】10/13(日) 14:00、14(月祝) 14:00
【構成・演出】内藤裕敬
【料金】¥1000
【会場】小劇場 ＊全席自由



NODA・MAP 第23回公演 「Q:A Night At The Kabuki」

Inspired by A Night At The Opera 作・演出 野田秀樹 音楽 QUEEN

9/7(土)
発売

【日程】10/31(木) 19:00、11/1(金) 19:00、2(土) 13:00・18:00、
3(日祝) 13:00、4(月休) 13:00
【作・演出】野田秀樹
【出演】松たか子、上川隆也、
広瀬すず、志尊淳、
橋本さとし、小松和重、伊勢佳世、羽野晶紀、
野田秀樹、竹中直人
【料金】S席¥12000、A席¥8500、サイドシート¥5700(25歳以下
¥3000)、高校生割引シート¥1000
【会場】大ホール ＊購入枚数制限あり



「ドクター・ホフマンのサナトリウム ～カフカ第4の長編～」

10/13(日)
発売

【日程】12/14(土) 13:00・18:30、15(日) 13:00
【作・演出】ケラリーノ・サンドロヴィッチ
【出演】多部未華子、瀬戸康史、音尾琢真、大倉孝二、村川絵梨、
犬山イヌコ、緒川たまき、渡辺いっけい、麻実れい ほか
【料金】一般¥8000、ユース(24歳以下)¥4500、
高校生(約)チケット¥1500
【会場】中劇場

MUSIC

芸術の秋、リサイタルとオーケストラをご紹介。
あなたはどちら派？

親しみやすいトークを交え本格的な演奏をお楽しみいただく「リサイタルシリーズ」に、日本を代表するピアニスト仲道郁代が登場！清らかで美しいシューマン珠玉の名曲を携え、響ホールを美しいピアノの響きで彩ります。リサイタル前日のアナリーゼはチケット未入手でも参加OK。ビギナーにも下調べ派にもオススメです。

10月には、海外オーケストラや室内楽を中心に多彩なラインナップでクラシック音楽の魅力を存分に味わえる「北九州国際音楽祭」が開幕。今年のキャッチコピーは「エモーショナルー東アジアへのめざめー」。サロンコンサートやレクチャー、リハーサル見学など、良質な音楽をより身近に感じられるプログラムも充実しているので、好みの楽しみ方を探してみてください。



©Kiyotaka Saito

響ホールリサイタルシリーズ 仲道郁代ピアノ・リサイタル

発売中

【日程】9/7(土) 14:00
【料金】一般¥3000、25歳以下¥2000
【会場】響ホール
※9/6(金) 18:30～アナリーゼワークショップあり
(無料・要事前申込)

アナリーゼとは？

「アナリーゼ」とは「楽曲分析」のこと。ワークショップでは、曲が作られた時代背景や楽曲の成り立ちなどから、その曲にこめられた思いや聴きどころを、演奏家自らが演奏を交えながら解説します。



©Harald Hoffmann/DG

2019 北九州国際音楽祭 マレク・ヤノフスキ 指揮 ケルン放送交響楽団 チョ・ソンジン[ピアノ]

7/1(日)
発売

【日程】11/24(日) 15:00(開場 14:15)
【曲目】ベートーヴェン:ピアノ協奏曲 第5番「皇帝」、
交響曲 第6番「田園」
【料金】SS席¥12000、S席¥9000、A席¥7000、B席¥5000、
U-25(A&B席)¥2000 ＊当日¥500増 ＊ポイント対象外
【会場】アルモニークサーク北九州ソレイユホール
【問】北九州国際音楽祭事務局 TEL.093-663-6567



ふらここから

575で感じる季節のいろどり

俳句＝村田もも子 イラスト＝刈屋さちよ



緑蔭に 立つて目薬 さしてゐる

夏のはじめ平成筑豊鉄道に乗った。列車は黄金色の麦畑と新緑のなか、香春岳を慕うように進んでゆく。途中車内から、ホームで目薬をさす男子高校生を見かけた。背筋がすくく伸びていた。

「緑蔭(りよくいん)」は夏の季語。緑ゆたかな木立の陰のこと。強い日差しのか木蔭に辿り着いたときの清涼さ、木漏れ日の美しさは格別。

PROFILE

村田もも子／「古本や檸檬」イベント担当。毎月店内で檸檬句会を開く。7/27・28「小倉駅 フルモノ遊覧市」開催。

刈屋さちよ／2匹の黒猫とラジオを聴きながら在宅でコンテやデザインもするイラストレーター。いつか娘と美術館巡りをしたい…。

イロドリ+プラス

今回のテーマ「アートな一杯」

The Certain Bar

北九州市小倉北区京町3-6-23有真ビル201

<https://www.certain-bar.com/>

※メニューは日によって異なります

舞台やコンサートのあと、その余韻を増幅させてくれるステキなお酒。小倉駅のすぐ近くにあるThe Certain Barでは、季節の素材を用いた特別な一杯を提供してくれる。

「人間は、舌と鼻の先とは別に鼻腔の奥の器官で香りの物質を捉え、八割方味覚を感じていると言われます。また嗅覚は、視覚や聴覚とは異なり、記憶や感情を処理する脳と直結し過去の記憶を蘇らせます。初夏はスイカやキュウリなどのウリ科のカクテルがおいしい季節。ウリ科は俗にウォーターリーな香りと言われ実際に水の香りは存在しませんが、水を連想させ蒸し暑い夜を涼しく演出してくれます」(マスター・野村周平さん)



information 公演チケット取扱

オンラインチケット



電話(主催事業のみ取扱)

北九州芸術劇場 TEL093-562-8435
(10:00～18:00/土日祝休)

響ホール音楽事業課 TEL093-663-6661
(9:00～18:00/土日祝休)

窓口

北九州芸術劇場プレイガイド(リバーウォーク北九州5F)
(平日 11:00～18:00、土日祝 10:00～18:00)

響ホール事務室(9:00～18:00)

チケットクラブQ 入会 検索

北九州芸術劇場

KITAKYUSHU PERFORMING ARTS CENTER

〒803-0812 北九州市小倉北区室町1丁目1-11

リバーウォーク北九州内

TEL 093-562-2655(10:00～18:00)



北九州市立 響ホール

HIBIKI HALL

〒805-0062 北九州市八幡東区平野1丁目1-1

国際村交流センター内

TEL 093-662-4010(9:00～18:00)

